

図書館においてある本の中から
おすすめのものをごピックアップ。
バラエティに富んだ本を紹介いたします。

人生はニヤンとかなる！

水野 敬也 著

町立 鷹巣図書館

TEL0996-86-1111



かわいい猫の写真と言葉が
マッチしていて、思わず笑顔に
なってしまいます。

ありがとう！わさびちゃん

わさびちゃん 著



路上でガラスに襲われている
ところを、人間の父さんと母さん
に助けられた子猫、わさび
ちゃん。出会いの日から写真を
交えて紹介します。

町立 指江図書館

TEL0996-88-6500

Pick Up publication

長島 文芸

Nagashima Bungai
ながしまぶんげい

明神俳句会

ぶつ切りの寒鰯がよし島泊り
寒月光厨に鍋のぶら下がる
灯台のことさら白し野菊晴
蕎麦の幹殊に濃くせる開墾地
俎の無数の傷や冬に入る
立冬や沖より聞こゆ風の音
いきなりと言へばいきなり冬来る
大銀杏古墳の岡を照らして
冬ぬくしさかな祭りに人の群れ
すばらしき秋を奏でる阿蘇の山
一山を赤茶に染めて里の秋
芋掘れば水平線に陽が沈む

淵脇 護
竹内 功
二階堂妙子
筑前 初市
山寄加代子
関 佳代美
迫口 君代
大堂 早苗
中橋 藤七
坂口 静子
二階堂恵子
大堂 正弘

岩下 房代
榎平 頼子
米尾 和子
坂之下典子
中山タマエ
濱田美代子
濱畑 松枝
林 ヒロ

並木道に続く楓の紅葉に深山の町は秋に華やぐ
もの言へぬ麻痺ある姉は遠い地に娘らに連れられ
故郷去りぬ
豌豆の白花揺るるハウスまで真向ふ杉生の秀鳴り
聞へ来
職終へて故里に戻り来し若者の白髪を見つつわが
老ひを知る
黄に冴へて石路続くわが島に帰り来たりて心安ら
ぐ
杖つきて歩む歩道に石路の花盛りみて夕陽に映ゆ
る
寒の夜に鳴きぬし老犬は安らぎて土に還らん娘は
花植うる
いちはやく咲き初む水仙一輪のほのかな香り食卓
に活く

長島短歌会

創生短歌会

熟れすぎしこの金柑は鴨と分ち合ふごと啄み多く
独り居は沈みがちな年暮の遺影を抱きて語
らふ
時雨降る墓地に見上ぐる樟大樹石を抱きて幾年過
ぎぬ
漸くに晴れし島道緑濃き葉群抜きいで石路の花咲
く
梅檀の枝を切られし鳥等は止まり木求め声もふる
えて

本田 幸子
松元 睦子
市尾 操
岩下 ち江
吉田 映子

公園の鳩には意外に足悪き鳩がいるなり人の世に
似て
寒き日とぬくき日ありておのずから今日の寒さに
我は従う
妻ありてすこやかにりし日の遠く帰らぬ日日を我
は生くるも
糸造り鳥賊のさしみに黄身載せて今宵の肴ちよい
と贅沢
軒下にズボンの乾き具合みて郵便受けをついでに
覗く
百姓はこんなもんだよ赤き日が山に落ちゆくまで
を見ている
新聞のおくやみ欄を讀みており何時の日かここに
載らむ我が名も

竹之内重信
石原百合子
村上 義彦
宮元 司
大塚 洋子
野村 益信
山下 学

雨がやみ幼子はしやぎ大空に雨も疲れてお昼寝し
たよ
偽りて母に詫びたし有りし日に思い出辿り月に託
せぬ
過ぎ去りし知らず間に来る年なるや年はいやかな
困るなるかな
のど奥にいがらつぼさのよみがえる資料館にて唐
箕見たる日
「俳句」
小春日や蠅取蜘蛛がでておじやる

中仮屋辰子
天地 雪舞
町田 末則
平木 良雄
宗方 清明

一般作品